

吸着する総義歯への近道

既存の総義歯製作方法をシステム化する

抄録

吸着する総義歯製作のために重要なことは、良い印象と正確な重合です。

1. 良い印象とは

印象時に個人トレーが口腔内に吸着していることが大切です、吸着しない印象は義歯になっても吸着するわけがありません。

吸着するためには個人トレーの正確な辺縁の設定が欠かせませんが、歯科医師でも正確な設定ができる方は多くないように感じます。

そこで印象はすべて歯科医師任せにせず、歯科技工士が模型を読むスキルを身につけ、正確な辺縁の設定を施した個人トレーを提供することが大切になります。

歯科医師と力を合わせ良い印象を獲得することは吸着する総義歯への近道です。

2. 正確な重合とは

口腔内に吸着した印象をそのまま義歯になっても吸着させることです。

吸着した印象が採れたのに、義歯になって浮いたり落ちたりするときは、すべて歯科技工士の責任です。

レジンの正確な成型はとても難しいことです。レジンの種類、重合方法が違えば熱収縮、重合収縮の対処方法も変わりますが、正しく理解されている歯科技工士は多くないと感じます。

そこで製作方法別に熱収縮の補償方法をマニュアルにしたので、皆さんには明日から利用していただけます。

重合収縮の補填については、各メーカーのシステム重合機器に匹敵する、改良を重ねたシリコーンゴムを使った埋没法をご紹介します。この術式は月刊歯科技工の9月号に掲載予定です。

歯科技工士が義歯成型の正しい知識と技術を獲得することは吸着する総義歯への近道です。

プロフィール

井上敏博

日技認定講師

生涯研修 2 期終了

略歴

1959 年	生まれ
1980 年	広大歯学部附属歯科技工士学校卒業
1980 年	広島市内 サンラボラトリー勤務
1983 年	T.I デンタル・アート開業